

平成25年度

財務書類4表

【要約版】

岐阜県瑞穂市

平成26年11月

新地方公会計制度の概要

「行政改革推進法」（平成18年6月）の成立を契機に、地方の資産・債務改革の一環として、「新地方公会計制度の整備」が位置付けられ、国より人口3万人以上の団体は、財務書類4表を作成し公表するよう通達がありました。

現状の市町村の決算は、議会で承認された予算を適正、確実に執行したかどうか、また、その年度にどれだけお金が入って、どれだけ支払いがあったかという現金の出入り（現金主義）を基に収支を明確にしてきましたが、一方では、保有する資産・負債、いわゆるストックの状況が把握できないこと、減価償却費などの見えにくいコストが明らかにされていないこと、第3セクターなども含めた市町村全体の財務情報が十分ではないこと等が課題として指摘されていました。そこで、資産・債務の適切な管理や財務情報の分かりやすい開示を一層推進するため、企業会計的手法（発生主義・複式簿記）を取り入れた連結ベースでの財務書類4表を作成することとなりました。

財務書類4表の作成方法

今回の財務4表は、平成19年10月に総務省から公表された新地方公会計制度実務研究会報告書の「基準モデル」により作成しています。

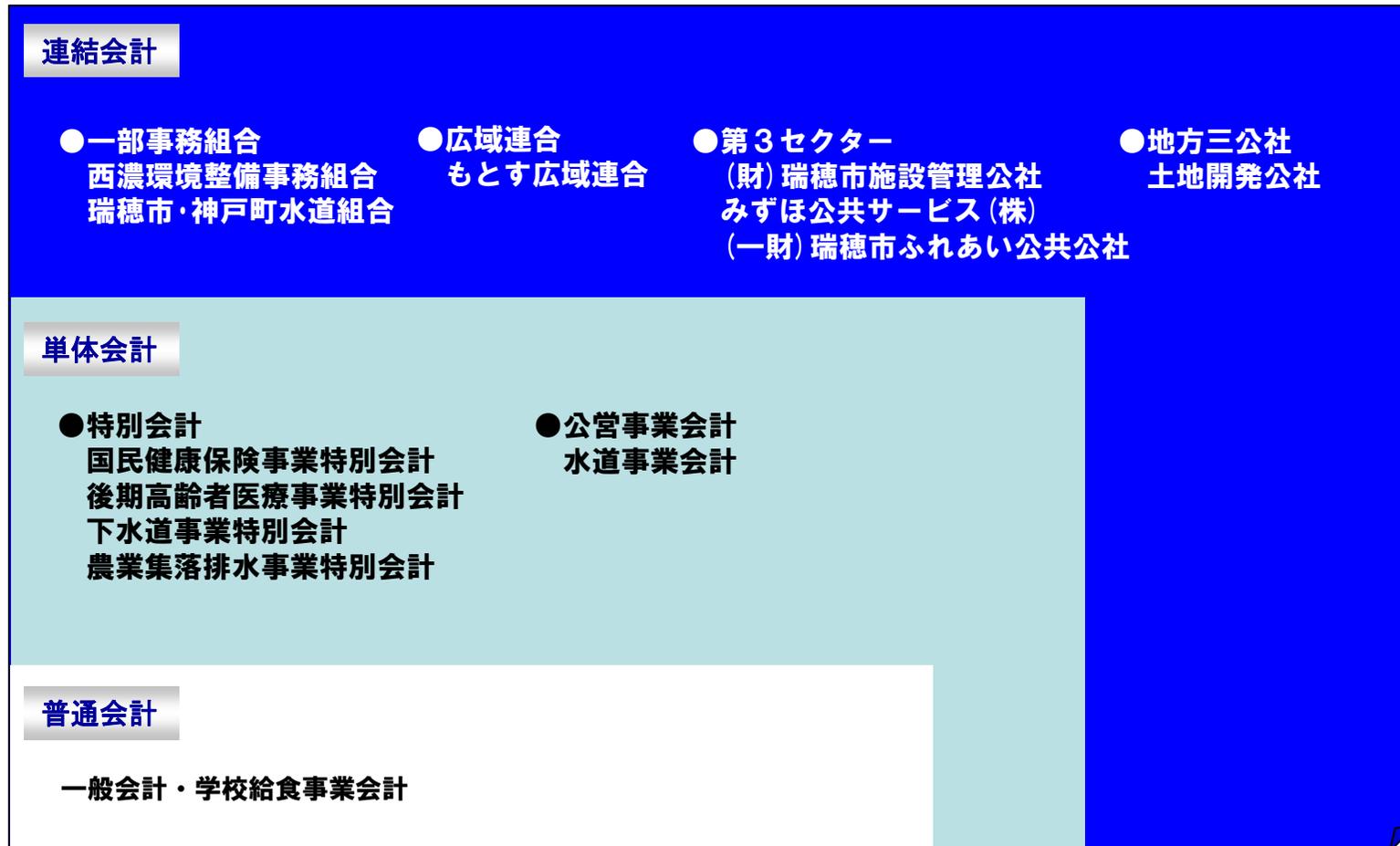
※ 作成方式には、現存する固定資産を全てリストアップし、公正価値により評価する「基準モデル」のほか「総務省改訂モデル」、「東京都方式」などがあります。

資産評価について

資産について、原則として「公正価値（市場価格又は合理的に算定された価額）」による適正な評価に努め、公共資産で過去に取得した建物や工作物などは再調達価額を算出して減価償却を行い、土地については固定資産税路線価等を使用し合理的な方法で再評価を行いました。流動資産の未収金は市税、使用料及び手数料などのうち、年度末までに債権者から支払いのない翌年度以降に遅延して収入される債権から、貸倒引当金（今後、回収不能と見込まれるもの、貸倒の見積は過去3年間の平均不納欠損率により算出）を控除しています。

財務書類の対象範囲

今回の財務書類は、一般会計から地方三公社の土地開発公社までを連結対象としました。



連結会計（前ページの一般会計から土地開発公社まで）ベースでの財務書類4表となります。

単位：千円

貸借対照表（BS）

資 産 の 部		負 債 の 部	
1. 金融資産	16,919,255	1. 流動負債	1,760,956
資金	3,124,579	地方債（短期）	1,357,035
金融資産	13,794,676	その他	403,921
債権	688,966	2. 非流動負債	17,087,336
有価証券	11,141	地方債	14,278,049
投資等	13,094,569	引当金	2,710,596
2. 非金融資産	111,007,376	その他	98,691
事業用資産	42,447,703	負債合計	18,848,292
有形固定資産	42,426,001	純 資 産 の 部	
無形固定資産	16,609	純資産合計	
棚卸資産	5,093	109,078,339	
インフラ資産	68,553,112		
繰延資産	6,561		
資産合計	127,926,631	負債・純資産合計	127,926,631

純資産変動計算書（NW）

期首純資産残高	108,420,111
1. 財源の用途	▲ 22,737,637
①純経常行政コスト	▲ 18,644,522
②その他の財源の用途	▲ 4,093,115
2. 財源の調達	24,768,711
①税込	7,377,797
②社会保険料	2,344,818
③移転収入	10,301,462
④その他の財源調達	4,744,634
3. その他	▲ 1,372,846
期末純資産残高	109,078,339

資金収支計算書（CF）

基礎的財政収支	978,561
経常的収支	2,905,114
経常業務費用支出	▲ 8,439,613
移転支出	▲ 10,830,757
地方税	7,369,962
地方交付税	2,873,311
補助金	7,522,674
経常業務収益収入	2,060,250
その他	2,349,287
資本的収支	▲ 1,926,553
固定資産形成支出	▲ 1,674,917
長期金融資産形成支出等	▲ 1,066,847
固定資産売却収入	50,675
長期金融資産償還収入等	764,536
財務的収支	▲ 727,387
支払利息支出	▲ 202,428
元本償還支出	▲ 1,692,030
地方債発行収入等	1,167,071
当期資金収支額	251,174
期首資金残高	2,873,405
期末資金残高	3,124,579

行政コスト計算書（PL）

経常行政コスト	20,618,410
1. 人にかかるコスト	3,978,475
(1) 人件費	3,821,280
(2) 退職手当引当金繰入等	157,195
2. 物にかかるコスト	2,814,881
(1) 物件費	1,370,591
(2) 減価償却費	986,034
(3) 維持補修費	458,256
3. 移転支出的なコスト	10,807,332
(1) 他会計への支出	0
(2) 社会保障給付	4,912,085
(3) 補助金等	5,895,247
4. その他のコスト	3,017,722
(1) 公債費（利払）等	202,428
(2) その他の経費	2,815,294
経常収益	1,973,888
使用料・手数料等	1,973,888
純経常行政コスト	18,644,522

※ 上記財務4表は科目単位で端数整理してあります。

(単位：千円)

貸借対照表 (BS)

資 産 の 部		負 債 の 部	
1. 金融資産	16,919,255	1. 流動負債	1,760,956
資金	3,124,579	地方債（短期）	1,357,035
金融資産	13,794,676	その他	403,921
債権	688,966	2. 非流動負債	17,087,336
有価証券	11,141	地方債	14,278,049
投資等	13,094,569	引当金	2,710,596
2. 非金融資産	111,007,376	その他	98,691
事業用資産	42,447,703	負債合計	18,848,292
有形固定資産	42,426,001	純 資 産 の 部	
無形固定資産	16,609	純資産合計	109,078,339
棚卸資産	5,093		
インフラ資産	68,553,112		
繰延資産	6,561		
資産合計	127,926,631	負債・純資産合計	127,926,631

※基準モデルに基づく配列基準に従い、流動性の高い（換金性の高い）資産の順で資産を配列しております。

【貸借対照表】

◆貸借対照表は、市が過去から蓄積してきた資産（財産）に対して、負債（借金）がどれだけあるかをバランス表示させたものです。いわば「**瑞穂市の次世代への相続財産一覧表**」となります。

資 産＝市が所有している施設や道路、基金などの財産

負 債＝将来世代が返済しなければならない金額

純資産＝現在までの世代で負担してきた金額

◆資 産

資産合計は**1, 279億円**となっており、そのほとんどは固定資産（非金融資産**1, 110億円**）となっています。

◆負 債

将来世代が負担することとなる負債合計は、**188億円**と資産合計の約**14.6%**と低い割合となっています。

◆純資産

資産合計から負債合計を差し引いた**1, 091億円**が現在までの世代で負担してきた資産となり、この額の資産合計に対する割合が、純資産比率で、民間企業でいう自己資本比率となります。当市の場合は**85.3%**と地方公共団体の標準とされている**60%～70%**を大きく超えています。

【コメント】

資産合計**1, 279億円**と巨額な資産の額となっていますが、道路や橋など都市基盤となるインフラ資産は、そのほとんどが経済的価値はないものとして考えざるを得ないため、これを除くと資産合計は**594億円**となるため、純資産比率は**68.3%**になります。

行政コスト計算書 (PL) (単位: 千円)

経常行政コスト	20,618,410
1. 人にかかるコスト	3,978,475
(1) 人件費	3,821,280
(2) 退職手当引当金繰入等	157,195
2. 物にかかるコスト	2,814,881
(1) 物件費	1,370,591
(2) 減価償却費	986,034
(3) 維持補修費	458,256
3. 移転支出的なコスト	10,807,332
(1) 他会計への支出	0
(2) 社会保障給付	4,912,085
(3) 補助金等	5,895,247
4. その他のコスト	3,017,722
(1) 公債費(利払)等	202,428
(2) その他の経費	2,815,294
経常収益	1,973,888
使用料・手数料等	1,973,888
純経常行政コスト	18,644,522

※ 上記財務4表は科目単位で端数整理してあります。

【行政コスト計算書】

◆行政コスト計算書は、1年間における行政サービスに必要な費用を表示したものです。企業における損益計算書にあたるもので、貸借対照表がストックの財政状態を表したものであれば、これはいわゆるフローの財政状態を表したものになります。ただ、企業は利益を算出することを目的としていますが、**こちらは税金等で賄うべき行政コストを算出することが目的となります。**

人にかかるコスト = 行政サービスを行う職員の人件費など
 物にかかるコスト = 施設の維持補修費や減価償却費などの費用
 移転支出的なコスト = 他会計への繰出や扶助費、補助金等の費用
 その他のコスト = 地方債の利息など上記に属さない費用
 経常収益 = 利用者の使用料、手数料などの収益

◆瑞穂市の1年間に必要な経常行政コストの総額は206億円となっており、利用料などの収益20億円を除くと**186億円**となっています。

◆人にかかるコスト…**40億円(経常行政コストの19%)**

人にかかるコストは、議員の報酬、福利厚生費、臨時職員などの賃金も含まれています。また発生主義により将来の退職金も、退職手当引当金繰入として通常勤務のコストとして毎年必要額計上しており、賞与引当金も支給対象基準によって計上してあります。

◆物にかかるコスト…**28億円(経常行政コストの14%)**

物にかかるコストは、通常決算書に計上される物件費、施設の維持補修費となります。そのほか減価償却費というものがありますが、これは今年度に支出したわけではなく、施設の劣化等により減少された費用となり、いわば施設の維持補修などによる更新費となります。

◆移転支出的なコスト…**108億円(経常行政コストの52%)**

国保や介護保険の社会保障、子ども手当などの扶助費、その他補助金等がこの費用に計上されます。

【参考】

減価償却費は学校など事業用資産にかかるもののみで、道路などインフラ資産にかかるものは次の純資産変動計算書にて直接資本減耗として扱われます。

(単位：千円) **【純資産変動計算書】**

純資産変動計算書 (NW)

期首純資産残高	108,420,111
1. 財源の用途	▲ 22,737,637
①純経常行政コスト	▲ 18,644,522
②その他の財源の用途	▲ 4,093,115
2. 財源の調達	24,768,711
①税収	7,377,797
②社会保険料	2,344,818
③移転収入	10,301,462
④その他の財源調達	4,744,634
3. その他	▲ 1,372,846
期末純資産残高	109,078,339

◆純資産変動計算書は、先の貸借対照表の純資産が1年間でどのように変動したかを表示したものです。

財源の用途＝行政コスト計算書の純経常行政コストなどで、1年間に純資産を減少させる金額

財源の調達＝資産を形成する以外での税収、社会保険料などの金額

◆純資産の変動とは、経常行政コストなどをどのように財源を調達し、費やしたかという視点でとらえ、期末純資産残高が増加していれば、将来に引き継ぐ財産を増やしたことになり、減少していれば将来に引き継ぐ財産を減らしたことになります。

◆財源の用途（純資産を減らすもの）……▲227億円
純資産を減少させるものとしては、先の行政コスト計算書で計上した1年間における行政サービスに必要な費用186億円と、道路、公園などインフラ資産の目減り分等41億円がその額となります。

◆財源の調達（純資産を増やすもの）……248億円
純資産を増やすものとしては、税金、地方交付税などの一般財源に加え、国庫支出金など特定財源も純資産を増やす財源となります。

◆その他（純資産変動を調整するもの）……▲14億円
純資産を調整するものとしては、特別会計や公営企業会計など連結させることにより相殺しなければならない調整額がここに該当します。

(単位：千円)

資金収支計算書 (CF)

基礎的財政収支	978,561
経常的収支	2,905,114
経常業務費用支出	▲ 8,439,613
移転支出	▲ 10,830,757
地方税	7,369,962
地方交付税	2,873,311
補助金	7,522,674
経常業務収益収入	2,060,250
その他	2,349,287
資本的収支	▲ 1,926,553
固定資産形成支出	▲ 1,674,917
長期金融資産形成支出等	▲ 1,066,847
固定資産売却収入	50,675
長期金融資産償還収入等	764,536
財務的収支	▲ 727,387
支払利息支出	▲ 202,428
元本償還支出	▲ 1,692,030
地方債発行収入等	1,167,071
当期資金収支額	251,174
期首資金残高	2,873,405
期末資金残高	3,124,579

【資金収支計算書】

◆資金収支計算書は、現金の流れを示すもので、その収支を性質に応じて、経常的収支、資本的収支、財務的収支に区分して表示することで瑞穂市がどのような活動に資金を必要としているのかを表示したものです。ここには基礎的財政収支が表示されており、一般的にプライマリーバランスと呼ばれ、経常的収支と資本的収支、つまり、財務的収支を除く行政活動において健全に固定資産投資も含めた財政バランスがとれているかを見ることができます。

◆経常的収支…………… 29億円

経常的に行われる行政活動から発生する現金の流れで、収入では市税、施設利用料や各種手数料収入、支出では人件費、物件費、扶助費による支出、建物等の維持管理に伴う支出等を示しています。

◆資本的収支……………▲19億円

固定資産の取得及び売却、固定資産の取得財源としての国庫支出金収入、貸付による収支といった投資的な現金の流れを示しており、このほか、基金の積立、取崩し、他会計への繰出金についても投資活動の一環として計上します。

◆財務的収支…………… ▲7億円

地方債の発行による収入や元金の償還・利払いなど、主に借入れによる資金調達や償還にかかる収支を示しています。

財務書類4表で見えてくること

◆基礎的財政収支(プライマリーバランス)の改善

平成25年度は、プライマリーバランスが+9億円(平成23年度は+6億円)に改善されました。通常の行政活動による資金収支で固定資産形成支出がなされていることが分かります。地方債は償還が先行しております。財務的収支もプライマリーバランスの範囲内で行われておりますので、健全な財政バランスが取れていることが分かります。

◆固定資産管理の方向性の転換

固定資産の将来の更新問題が取り上げられています。これは一般的に2020年から2024年に資産更新が集中するという懸念です。潤沢な交付金を背景に地方自治体の固定資産への投資が一定時期に活発化したことを受けて、その更新時期が集中するという問題があります。増収が見込めない時勢下において資産の更新が集中した場合の財政負担は大きいと考えられます。資産の売却、維持補修、用途変更など、資産管理の見直しが必要となります。

今後の活用

- ◆財務書類4表を経年的に比較し、企業会計的手法による分析を行うことで、健全な財政運営に役立てます。
- ◆コスト分析を行うことで、常にコストを意識し、事務事業のあり方を見直すための資料として活用していきます。

普通会計（一般会計・学校給食）ベースでの財務書類4表となります。

単位：千円

貸借対照表（BS）

資 産 の 部		負 債 の 部	
1. 金融資産	15,328,182	1. 流動負債	1,393,969
資金	977,711	地方債（短期）	1,190,918
金融資産	14,350,471	その他	203,051
債権	317,693	2. 非流動負債	14,039,027
有価証券	11,091	地方債	11,403,618
投資等	14,021,687	引当金	2,538,346
2. 非金融資産	98,698,330	その他	97,063
事業用資産	41,208,085	負債合計	15,432,996
有形固定資産	41,208,085	純 資 産 の 部	
無形固定資産		純資産合計	98,593,516
棚卸資産			
インフラ資産	57,490,245		
繰延資産			
資産合計	114,026,512	負債・純資産合計	114,026,512

純資産変動計算書（NW）

期 首 純 資 産 残 高	97,876,226
1. 財源の使途	▲ 15,092,497
①純経常行政コスト	▲ 11,764,789
②その他の財源の使途	▲ 3,327,708
2. 財源の調達	16,830,006
①税収	7,377,797
②社会保険料	0
③移転収入	5,753,284
④その他の財源調達	3,698,925
3. その他	▲ 1,020,219
期 末 純 資 産 残 高	98,593,516

資金収支計算書（CF）

基 礎 的 財 政 収 支	426,918
経 常 的 収 支	2,320,837
経常業務費用支出	▲ 6,944,777
移転支出	▲ 4,834,260
地方税	7,369,962
地方交付税	2,641,626
補助金	5,220,896
経常業務収益収入	978,375
その他	▲ 2,110,985
資 本 的 収 支	▲ 1,893,919
固定資産形成支出	▲ 1,513,680
長期金融資産形成支出等	▲ 897,481
固定資産売却収入	5,724
長期金融資産償還収入等	511,518
財 務 的 収 支	▲ 299,197
支払利息支出	▲ 129,462
元本償還支出	▲ 1,335,735
地方債発行収入	1,166,000
当期資金収支額	127,721
期首資金残高	849,990
期 末 資 金 残 高	977,711

行政コスト計算書（PL）

経 常 行 政 コ ス ト	12,810,573
1. 人にかかるコスト	3,329,315
(1) 人件費	3,028,235
(2) 退職手当引当金繰入等	301,080
2. 物にかかるコスト	2,222,459
(1) 物件費	1,041,473
(2) 減価償却費	790,000
(3) 維持補修費	390,986
3. 移転支出的なコスト	4,834,260
(1) 他会計への支出	505,086
(2) 社会保障給付	2,583,910
(3) 補助金等	1,745,264
4. その他のコスト	2,424,539
(1) 公債費（利払）等	129,462
(2) その他の経費	2,295,077
経 常 収 益	1,045,784
使用料・手数料等	1,045,784
純 経 常 行 政 コ ス ト	11,764,789

※ 上記財務4表は科目単位で端数整理してあります。